

吉祥天女画像

吉祥天女画像は奈良時代（710～794）にまで遡り、国宝に登録されています。この絵は、美と幸福の女神である吉祥天で、吉祥天はヒンズー教の女神ラクシュミに起源を持ちます。ラクシュミは仏教に組み込まれた神の一人であり、シュリマハデヴィとしても知られる超自然的な存在です。吉祥天は、幸運と実りある収穫の女神、そして、悟りを求める人々を導くことでも知られています。絵は麻に描かれた最も古い一人の存在を描いた画像であり、奈良にはそのような画像の他のいくつかの例があるものの、それらは非常にまれです。この画像はこの時代認識されていた美を代表するものだと考えられており、当時の流行の様子がいっぱいにあしらわれた神の色鮮やかな衣が、彼女が前に足を出すのとともに優しく揺れているような、動きをうまく捉えている、素晴らしい作品です。彼女は左手に如意宝珠という、すべての願いを叶える人智を越える宝物を持っています。この絵は、新年の仏教礼拝の際に、年に一度だけ公開されます。この短い間だけ、信者は、正月の本尊として吉祥天に礼拝し、前年の罪を悔い改め、新しい年の導きと平和を祈ります。